【後志管内の学力向上策に関連した特色ある取組】

好循環を創出する検証改善サイクルの充実

◆　教育局の学力向上策の概要

○　市町村教育委員会教育長と教育局長がともに学校を訪問し、今後の取組に対する助言や教育委員会・教育局ができるサポートなどについて協議
○　全国学力・学習状況調査結果の分析と取組の具体が整理される10月に教育委員会訪問１（教育委員会対象）と教育委員会訪問２（各校の校長と教務主任対象）を実施し、成果の検証結果と授業改善の方向を学校、教育委員会、教育局で共有

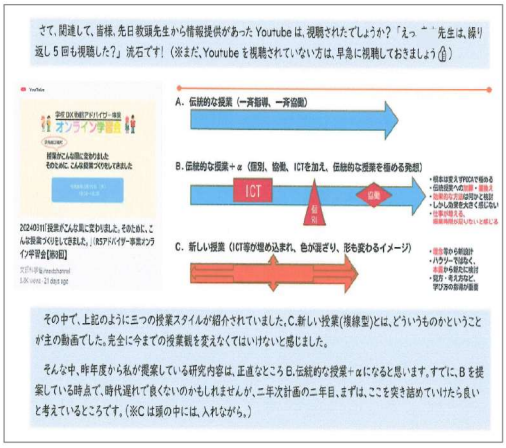
◆　学力向上策に関連した特色ある取組

取組のポイントとその具体

■１　学力調査の成果を全教職員で実感できる組織づくり（共和町立西陵小学校）

・全国学力・学習状況調査問題に基づく求められる力の確認、授業改善の方向性の決定、授業改善の検証を全教員の共通理解の下、実践した。
・全国学力・学習状況調査の結果から把握した課題を全校の課題として受け止め、速やかに授業改善に取り組むとともに、他の実践から学ぶ授業参観や研修便りの発行による授業改善に向けた情報共有を行うなど、積極的な取組を進めた。

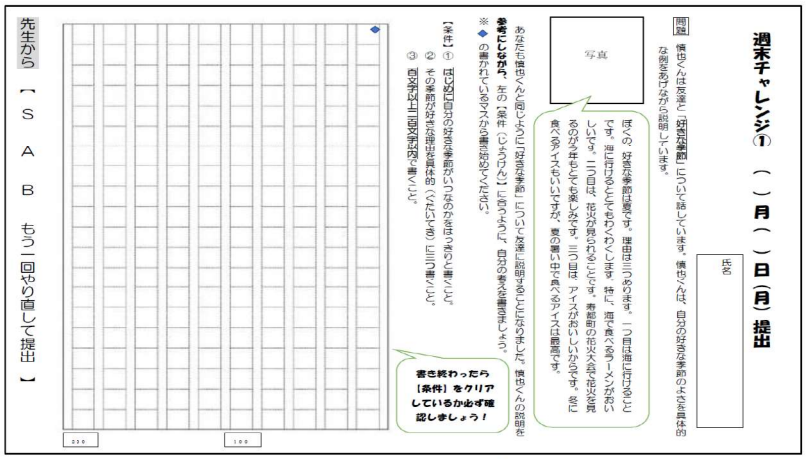
【授業改善の検証】



【授業改善に向けたポイントの共有】

■２　できなかった問題をできるようにする指導の充実（寿都町立寿都小学校）

・全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト等の分析結果から、子どもたちに課題が見られた領域等を明確にし、配当時数や学習形態、指導方法などを含め、教育課程の改善等に取り組んだ。
・第６学年が、全国学力・学習状況調査でできなかった問題ができるようになったことを実感して卒業できるよう、教員が課題となる内容の問題を作成するなど、学び直しの機会を充実させるとともに、他学年においても活用するなど、系統的な指導に取り組んだ。



【教員が作成した問題】

◆　成果・課題

・全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト等の結果分析を踏まえた授業改善のポイント等を共有し、実践するなど、各学校での検証改善サイクルの充実が図られてきた。
・「週末チャレンジ」（自学用のプリント）を作成するなど、子どもたちに課題の見られた領域等の資質・能力の育成に向けた取組が主体的に進められるようになってきた。
・各学校の検証改善サイクルを充実させていくプロセスに応じ、校長のリーダーシップや教頭の関与のバランスを工夫する必要がある。